

## 副専攻コース説明書

開設学部名 (全学部)

副専攻の種別とコースの名称	学際的副専攻 瀬戸内の里山・里海学コース
<p><b>1 副専攻コースの紹介と概要</b></p> <p>学際的副専攻コースである本コースは、本学のブランドである「瀬戸内の里山・里海学」をコース名としており、共通教育科目の教養教育科目F群（地域学）科目と4学部の専門教育科目から構成する学部横断型、文理融合型のコースです。このコースでは、本学が位置する備後地域あるいは瀬戸内地域の経済、歴史文化、並びにそこで持続的に暮らしていくために必要となる自然との共生について幅広く学びます。</p>	
<p><b>2 副専攻コースの開始時期と副専攻コース選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)</b></p> <p>本コースの履修申請は、2年次前期以降の履修登録期間に行うことができます。ただし、下の8の欄に記載しているように、履修希望者の受入上限人数を設定していますので、皆さんの希望にそえない可能性もあります。詳しくは8の欄を見てください。</p> <p>本コースの履修に関して、既修得要件は特にありません。</p>	
<p><b>3 副専攻コースの履修について</b></p> <p>(1) <b>本コースの到達目標</b></p> <p>到達目標は、本コースの授業科目の履修を通じて修得した備後地域あるいは瀬戸内地域の経済、歴史文化、並びにそこで持続的に暮らしていくために必要となる自然との共生に関する幅広い知識に基づいて、里山・里海に根ざす未来のまち・暮らしのあり方について多角的な視点から考えることができるようになることです。</p> <p>(2) <b>本コースを履修する上での注意点</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本コースは、<b>全学部・学科所属の学生</b>が履修できます。ただし、<b>履修申請を行う時点までの累計GPA値が3.0以上であることが条件</b>となります。</li> <li>2 演習系科目については、キャリア教育科目の2科目を除いて履修登録時に抽選あるいは選抜により人数制限を行う場合があります。この人数制限にあたっては、教養教育科目F群科目については本副専攻コースの履修登録を行っている者を優先します。また、学部・学科の専門教育科目の場合には、当該科目を卒業要件科目とする学部・学科生を最優先とし、次に本副専攻コースの履修登録を行っている者を優先します。</li> <li>3 本コースの授業科目のうち、所属学科の専門教育科目（所属学部の共通専門科目を含む）は、下の6欄に記載している（2）修了要件の制限に関わらず、単位を修得した場合には、所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目の単位としては認定されます。</li> <li>4 本コースの授業科目のうち、他学部あるいは他学科の専門教育科目については、自由聴講制により5科目10単位までは所属学科の卒業要件に関わる専門教育科目（選択科目）の単位として認定できます。</li> <li>5 所属学科の授業時間割との関係で、登録した副専攻コースの授業科目の履修が制限される場合があります。</li> </ol>	
<p><b>4 教育内容</b></p> <p>本コースの授業科目は、「備後圏域経済・文化学系」「瀬戸内自然共生学系」並びにそれらの両方の要素を含む「境界領域」の各科目群から構成されています。講義科目については、全体で8科目16単位以上、かつ2つの系からそれぞれ2科目4単位以上の単位を修得しなければならないように修了要件を定めているため、備後地域あるいは瀬戸内地域に関する文系に分類される知識と理系に分類される知識の両方を幅広く修得することができます。</p>	

さらに、演習系科目を2科目以上履修して4単位以上を修得しなければならないため、修得済みのあるいは修得中の知識を駆使して地域の課題の解決に取り組むことなどで、協働力、コミュニケーション力、応用力など、実社会で役立つ様々な資質を伸ばすことができます。

## 5 授業科目及び授業内容

本コースの授業科目については別添の授業科目配当表を参照してください。  
各科目の内容については、各年度に公開される当該科目のシラバスを参照してください。

## 6 評価

### (1) 試験・成績評価

講義科目では原則として定期試験を行います。毎回実施する小テストの点数等から総合的に成績評価を行う科目もあります。各科目の成績評価の方法は当該科目のシラバスに記載しています。

### (2) 修了要件

次の要件1と2を満たした者に、卒業時に副専攻（瀬戸内の里山・里海学コース）の修了証書を授与します。ただし、所属学科の専門教育科目（所属学部の共通専門教育科目を含む）は、合計2科目4単位までを、要件1と2の副専攻修了要件科目として認定できます。

- 1 本コースの講義科目から16単位以上を修得していること。ただし、「備考(学系)」欄に「備後圏域経済・文化学系」と表記している科目、及び「瀬戸内自然共生学系」と表記している科目からそれぞれ4単位以上を修得していること。
- 2 本コースの演習系科目から4単位以上を修得していること。

また、本コース修了者のうち、「備考(学系)」欄に「備後圏域経済・文化学系」と表記している科目の中から演習系科目2単位以上を含む14単位以上を修得した者に「備後圏域経済・文化学マイスター」の称号を、また「瀬戸内自然共生学系」と表記している科目の中から同じ条件の単位数を修得した者に「瀬戸内自然共生学マイスター」の称号をそれぞれ授与します。

## 7 副専攻コースの責任体制

本コースの修了認定は、各履修者の所属学部の学部教授会が行います。  
本コースに関わる事務は、教務課と関係学部事務室が協力して行います。

## 8 副専攻コース履修希望者の受入上限数

各入学年次生について25名を上限とします。  
2年次の年度初めの履修登録期間における履修希望者が上記の定員を超えた場合には、前年度までの累計GPA値が高い者を優先します。なお、定員に空きが生じている場合には、2年次後期以降の履修登録期間にも履修者の募集を行います。

## 9 副専攻コースの既修得単位等の認定単位数等

履修申請時に別添の本コースの授業科目配当表に記載されている科目の単位を既に修得している場合、副専攻履修申請書（様式第2号）の裏面の表に必要事項を記入すれば、それらの科目の単位は本コースの修了要件単位に算入されます。

また、令和6年度以前に入学した学生については、共通教育科目 教養教育科目A群「食と人間」E群「セルフメディケーション」E群「食と健康」の単位は、それぞれ本副専攻コースの科目「地域資源から学ぶ食文化と健康」「地域に学ぶセルフメディケーション」「地域の食を学ぶ演習」の単位と読み替えることが可能です。また、生命工学部 各学科共通専門科目「洋上里海総合演習」「食農フィールド科学演習」「瀬戸内の農水産業を学ぶ総合演習」の単位は、それぞれ本副専攻コースの科目「瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習」「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」「瀬戸内海の養殖水産物を学ぶ総合演習」の単位と読み替えることが可能です。履修申請時にそれらの科目の単位を既修得である場合には、副専攻履修申請書（様式第2号）の裏面の表に記入してください。ただしその場合にも、これらの科目は、所属学科の卒業認定にあたっては読み替えを行わない本来の群・名称の科目として取り扱われます。

学際的副専攻(瀬戸内の里山・里海学コース)授業科目配当表

講義科目

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考 (学系)
				前	後	前	後	前	後	前	後	
共通教育科目 教養教育科目 (F群)	G03RST1100 備後地域学		2	●								境界領域
	G03RST1450 瀬戸内の里山・里海学		2		●							
共通教育科目 教養教育科目 (F群)	G03RST1500 国際化と地域創生		2	●								備後圏域経済・文化学系
人間文化学部 人間文化 学科 専門教育科目	HA6ETH2100 日本語学概論2		2			●						
経済学部 共通 専門教育科目	EE6IEC2150 地域経済論		2			●						
	EE6GME2650 地方財政論基礎		2			●						
	EA6ABA2900 備後経済研究		2			●						
	EE6SPM2200 スポーツマネジメント論		2			●						
	EE6GME2700 地方財政論		2				●					
	E06CMS2600 備後経済論 I		2				●					
	E06CMS2650 備後経済論 II		2				●					
	E06CMS2700 備後経済論 III		2				●					
	EE6GME3400 経済政策		2					●				
EA6ABA3450 中小企業論		2						●				
共通教育科目 教養教育科目 (F群)	G03RST1960 地域資源から学ぶ食文化と健康		2	●								瀬戸内自然共生学系
	G03RST1250 地域防災基礎		2	●								
	G03RST1300 地域防災応用		2		●							
工学部 各学科 専門教育科目	T06SSE2250 環境工学		2				●					
生命工学部 生物科学科 専門教育科目	LB6BII2400 動物資源学		2				●					
	LB6ABI4800 沿岸環境の保全と再生 *1		2							●		
生命工学部 海洋生物科 学科 専門教育科目	LM6MCS2450 水産学概論		2			●						
	LM6FIE3100 沿岸域の環境と生物		2					●				
	LM6FIE3350 沿岸環境の保全と再生 *1		2						●			

## 演習系科目

科目区分	講義コード 授業科目	必修	単位	1年次		2年次		3年次		4年次		備考 (学系)	
				前	後	前	後	前	後	前	後		
共通教育科目 教養教育科目 (F群)	G03RST1150 備後に学ぶ地域の課題		1		●							境界領域	
	G03RST1200 松永に学ぶ産業と文化		2	●									
共通教育科目 キャリア教育科目	G04CAE2161 キャリアデザイン実践演習		2			●							
	G04CAE3160 BINGO OPEN インターンシップ		2				●						
共通教育科目 教養教育科目 (F群)	G03RST1400(前期) G03RST1401(後期) ドローンで撮る地域の魅力		2	●	●								備後圏域 経済・文化学系
経済学部 共通 専門教育科目	EA6ABA1200 地域調査 I		2		●								
	EA6ABA2970 地域調査 II		2			●							
人間文化学部 人間文化 学科 専門教育科目	HA6HIC3100 地域史研究法1		2					●					
	HA6HIC3130 地域史研究法2		2						●				
共通教育科目 教養教育科目 (F群)	G03RST1740 地域に学ぶセルフメディケーション		2		●							瀬戸内自然 共生学系	
	G03RST2350 実践地域防災学		2			●							
	G03RST2980 地域の食を学ぶ演習		2			●							
生命工学部 各学科 専門教育科目 (広島大学との単位互換 制度による授業科目)	LB5PRA2921 LN6FPS2151 LM6MCS2801 瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里 海総合演習 *2		2			●							
	LB5PRA2911 LN6FPS2101 LM6MCS2751 命の尊厳を涵養する食農フィールド 科学演習 *2		2			●							
	LB5PRA2931 LN6FPS2251 LM6MCS2851 瀬戸内海の養殖水産物を学ぶ総合演 習 *2		2				●						

\*1: 「沿岸環境の保全と再生」について、生物科学科生は講義コード LB6ABI4800 の科目を履修してください。海洋生物科学科を含む他の学科の所属学生は LM6FIE3350 の科目を履修してください。

\*2: これら3科目は、広島大学生物生産学部と福山大学生命工学部との協定に基づき、広島大学で授業が行われる単位互換科目です。生命工学部の3学科で講義コードが異なりますので、生物科学科生は LB で、健康栄養科学科生は LN で、海洋生物科学科生は LM で始まる講義コードの科目を、それぞれ履修してください。その他の学部学科の所属学生は LB で始まる講義コードの科目を履修してください。